

いじめ・不登校の構造解明の研究 (I)

八木一正・福永晋三*・長島良夫**・久坂哲也・苔米地信孝

(2002年3月20日受理)

Ichimasa YAGI, Sinzou FUKUNAGA*, Yosio NAGASIMA**, Tetsuya HISASAKA, Nobutaka TOMABACHI

A Study of Solving the Structure of Bullying and Truancy (I)

1. はじめに

今、学校は不登校13万人時代、子どもを取り巻く状況は極めて深刻なものがある¹⁻³⁾。定時制高校に勤務した経験を持つ筆者らは、次から次へ入学する生徒に不登校や中途退学になる子どもが多く心を痛めていた。そして、様々な生活指導やカウンセリング、さらに保護者面談等を通して解決策を模索してきた。しかし、原因は複雑で簡単には改善できないものが多かった。そういう中で、保護者の教育観や子育ての方法と今日的課題である「いじめ・不登校」との間に確かな因果関係があるのではという実感を持つに至った。そこで、それを検証するために、保護者を対象にアンケートを実施し、その分析を試みた。結果は極めて興味あるもので、ここに第一報を紹介する。

尚、本研究は単に分析・分類に留まるのではなく、保護者が我が子の問題の解決と未然防止の材料を提供することを今後狙っていく。

2. 調査方法

いじめ・不登校の調査は当事者の人権に配慮しなくてはならないので、調査そのものが非常に難しい。そこで、入学式の直後に強制しないという前提で保護者に協力してもらった。そして、やっと集まったデータは定時制高校二校合わせて42名分であった。当然、保護者が回答したくない場合は強制していないので、回収率は3割程度である。

調査項目は長年の経験からこの件に関して本質的と思えるものに、様々な予備調査等を繰り返して、絞り込んでいった。簡単にその内容と、それを略した項目を表1に示す。尚、詳しいアンケート用紙は表2に示した。

3. 調査結果および考察

調査結果は表3にデータを列挙した。時々空欄が見うけられるが、保護者が回答しなかった部

岩手大学教育学部

*東京都立昭和高等学校

**東京都立大泉高等学校

分であろうと考えられる。しかし、全体の傾向には統計的に影響が少ないので無視できる。この調査の結果は、統計学的には曖昧さのある多変量を数量化してその関係性を調べる一種の多変量解析の手法を使った。まず、調査結果から各々の項目間の相関係数を求め、表4にまとめた⁴⁾。特に、この表は不登校に関して他の項目を昇べきの順に並べ直したものである。さらに、表4を立体グラフに表すと図1になる。このグラフを概観すると、雑然と並んでいるようだが、部分的には特徴があり、それぞれの項目間に一定の関係性があることを伺うことができる。

次に、それぞれの項目について、他の項目とどのような関係性があるか、その傾向を一つ一つ分析していく。ただし、統計学的に信頼度95%で有意であるのは相関係数 r の絶対値が0.3程度以上でなければならない。ここで程度と述べたのは前述した通りデータに少し欠けたところがあったからである。ところで、この種の統計的議論にはもともと大雑把な部分があり、基本的には参考程度、あるいは、一つの傾向として見ていくべきものである。従って、ここでは信頼度90%まで下げ、つまり、 r を0.2程度まで落として議論の俎上に乗せ、考察することにした。それらをデータとグラフを比較しながら分析①から⑭までに示した。

全体を概観しての結論としては、この種の問題が生じないようにするためには分析⑨あたりが理想的な状況である。つまり、保護者にとって「我慢強い子に育て、よく話し、よく誉める」ことが本質的と思われる。このことは、教育現場にいる教師の日頃の実感に限りなく近いものである。これは、ある教頭会でこの話を発表したところ、ほとんどの人から大好評を博したことから推察できる。本研究は単に分析・分類に留まるのではなく、教師や保護者が子どものいじめ・不登校、さらにキレルなどの問題を解決あるいは未然防止する上で極めて参考になる情報を提供することである。従って、個々の分析は、全体のデータが少なく残念ではあるが、これまでにない示唆に富む画期的な提案になっていると確信している。

3. 終わりに

本研究は、学校における子どものいじめ・不登校などの構造を、可能な限り、解明しようという試みである。特に定時制高校に入学する生徒の保護者のアンケートをもとに統計的に分析した。中でも、保護者の教育観や子育ての方法がいじめ・不登校や「キレル」等とどのような因果関係を持つかをわづかではあるが明らかにした。結果は、事が起こってから臨応的な対応しかできていない教育現場に、予防策として極めて役立つものになったと考えている。しかし、本研究はまだ完成されたものではないが、今、大学に最も求められている発信せねばならない情報の一つである。そういう意味で、ステップとして大きく踏み出したものになっていると考えている。今後の課題としては、より多くのデータを収集して信頼度を向上させること、さらに高価な統計分析ソフトを購入して因子分析等のより高度な多変量解析を実施して、より本質的な要因を抽出することである。これらの課題を早急に解決するため今後も一層研究を積み重ねていきたい。

参考文献

- 1) 頼藤和寛；いま問いなおす登校拒否 これからの見方と対応，人文書院，1-220，1994
- 2) 「いじめ問題」研究報告書 一いじめ解決の方策を求めて一，東京都立教育研究所，1-257，1996
- 3) 「特別研究」第2年次研究報告書 子どもたちの揺れ動く心と学校の在り方 一小学校における授業妨害・拒否の問題を中心に一，東京都立教育研究所，1-58，2000
- 4) 柳井久江；4 Stepsエクセル統計，オーエムエス・星雲社，1-279，1998

【表1】調査項目の概要 (⇒は略語項目)

優しい子に育てたか？	⇒	優し子	躰に厳しいか？	⇒	躰強要
従順に育てたか？	⇒	従順さ	子の嘘を許すか？	⇒	嘘ダメ
子どもを誉めているか？	⇒	誉める	相談相手がたくさんいるか？	⇒	相談人
子どもと話をしているか？	⇒	好会話	自分の生き方に自信があるか？	⇒	自信親
綺麗好きか？	⇒	好綺麗	子はキレル時があるか？	⇒	キレル
我慢強く育てたか？	⇒	我慢強	子は過去にいじめられたか？	⇒	イジメ
子を叩く必要を感じるか？	⇒	要叩く	子是不登校の経験があるか？	⇒	不登校

【表4】各項目間の相関マトリクス

(統計的に $n = 42$ で $p < 0.05$ となるのは相関係数 $|r| > 0.3$ で有意)

	我慢強	好会話	誉める	好綺麗	躰強要	要叩く	嘘ダメ	相談人	従順さ	キレル	自信親	優し子	イジメ	不登校
我慢強	1	0.29	0.24	0.27	0.48	0.21	0.31	0.23	-0.08	-0.13	0.05	0.08	-0.07	-0.34
好会話	0.29	1	0.56	0.01	0.08	-0.04	0.36	0.33	-0.34	0.03	0.21	-0.05	-0.09	-0.19
誉める	0.24	0.56	1	-0.06	-0.04	-0.25	0.27	0.47	-0.20	0.04	0.44	0.11	-0.26	-0.19
好綺麗	0.27	0.01	-0.06	1	0.43	0.44	0.15	0.14	0.07	0.24	0.00	0.32	-0.13	-0.09
躰強要	0.48	0.08	-0.04	0.43	1	0.31	0.19	0.25	-0.01	0.23	-0.09	0.03	0.03	-0.09
要叩く	0.21	-0.04	-0.25	0.44	0.31	1	0.18	-0.13	-0.23	-0.03	-0.09	0.06	0.08	-0.03
嘘ダメ	0.31	0.36	0.27	0.15	0.19	0.18	1	0.27	-0.03	-0.04	0.34	0.16	-0.29	-0.02
相談人	0.23	0.33	0.47	0.14	0.25	-0.13	0.27	1	0.07	0.25	0.58	0.17	-0.35	-0.01
従順さ	-0.08	-0.34	-0.20	0.07	-0.01	-0.23	-0.03	0.07	1	0.32	0.02	0.22	-0.06	0.00
キレル	-0.13	0.03	0.04	0.24	0.23	-0.03	-0.04	0.25	0.32	1	0.04	0.14	-0.14	0.04
自信親	0.05	0.21	0.44	0.00	-0.09	-0.09	0.34	0.58	0.02	0.04	1	0.29	-0.16	0.14
優し子	0.08	-0.05	0.11	0.32	0.03	0.06	0.16	0.17	0.22	0.14	0.29	1	-0.06	0.16
イジメ	-0.07	-0.09	-0.26	-0.13	0.03	0.08	-0.29	-0.35	-0.06	-0.14	-0.16	-0.06	1	0.21
不登校	-0.34	-0.19	-0.19	-0.09	-0.09	-0.03	-0.02	-0.01	0.00	0.04	0.14	0.16	0.21	1

【表2】アンケート用紙（保護者用）

保護者の方へのアンケート

★ご入学おめでとうございます。本校では、将来性のある子供さんに良い教育をするために保護者の教育に対する考えをお聞きしております。以下、答えられる範囲で○印でアンケートに御協力下さるようお願いいたします。

◎保護者のお立場は？

- ①父親 ②母親 ③兄弟 ④祖父母 ⑤その他

■あなたは子供さんにやさしい子になってほしいと思いますか？

- ①非常にそう思う ②そう思っている ③少しそう思う ④そうは思わない ⑤まったくそうは思わない

■あなたは子供さんも自分の考えに沿って生きてほしいと思いますか？

- ①非常にそう思う ②そう思っている ③少しそう思う ④そうは思わない ⑤まったくそうは思わない

■あなたは家庭で子供さんをほめたことがありますか？

- ①いつもほめている ②ほめる方である ③時々ほめる ④ほめたことはあまりない ⑤まったくほめない

■あなたは最近子供さんと家庭でよく話をしていますか？

- ①非常によく話す ②話す方である ③時々話をする ④ほとんど話さない ⑤まったく話さない

■あなたは子供さんに身の回りをきれいにしてほしいと思いますか？

- ①非常にそう思う ②そう思っている ③少しそう思う ④そうは思わない ⑤まったくそうは思わない

■あなたはこれまで子供さんをガマン強い子に育てようと心がけてきましたか？

- ①常に心がけた ②心がけた方である ③時々心がけた ④ほとんど心がけなかった ⑤まったく心がけなかった

■ズバリ、あなたは子供さんのしつけには“ウルサイ”ほうですか？

- ①非常にそう思う ②そう思っている ③少しそう思う ④そうは思わない ⑤まったくそうは思わない

■あなたは子供さんがウソをつくことをどう思いますか？

- ①絶対に許せない ②許せない ③少し許せない ④あまり気にならない ⑤まったく気にならない

■あなたは子供さんを教育する上でたたくことは必要なことだと思いますか？

- ①非常にそう思う ②そう思っている ③少しそう思う ④そうは思わない ⑤まったくそうは思わない

■あなたは子育てで困った時まわりに相談相手がいますか？

- ①たくさんいます ②いる方である ③少しはいます ④ほとんどいない ⑤まったくいない

■ズバリ、あなたは自分の生き方や人生観に自信を持っている方ですか？

- ①非常にそう思う ②そう思っている ③少しそう思う ④そうは思わない ⑤まったくそうは思わない

■子供さんは最近ちょっとしたことで“キレたり” “ムカついたり” したことがありますか？

- ①いつもそうなる ②時々そうなる ③そうなるときもある ④ほとんどない ⑤まったくない

■子供さんはこれまで学校で“イジメられたり” “イジメたり” したことがありますか？

小学時代：①よくいじめられた ②時々いじめられた ③どちらもない ④時々いじめた方である ⑤よくいじめていた

中学時代：①よくいじめられた ②時々いじめられた ③どちらもない ④時々いじめた方である ⑤よくいじめていた

■子供さんは学校に行くのをいやがる不登校の経験がありますか？

小学5年頃：①まったく登校していない ②かなり休んだ ③休んだ方である ④時々休んだ ⑤ほとんど休んでいない

小学6年頃：①まったく登校していない ②かなり休んだ ③休んだ方である ④時々休んだ ⑤ほとんど休んでいない

中学1年頃：①まったく登校していない ②かなり休んだ ③休んだ方である ④時々休んだ ⑤ほとんど休んでいない

中学2年頃：①まったく登校していない ②かなり休んだ ③休んだ方である ④時々休んだ ⑤ほとんど休んでいない

中学3年頃：①まったく登校していない ②かなり休んだ ③休んだ方である ④時々休んだ ⑤ほとんど休んでいない

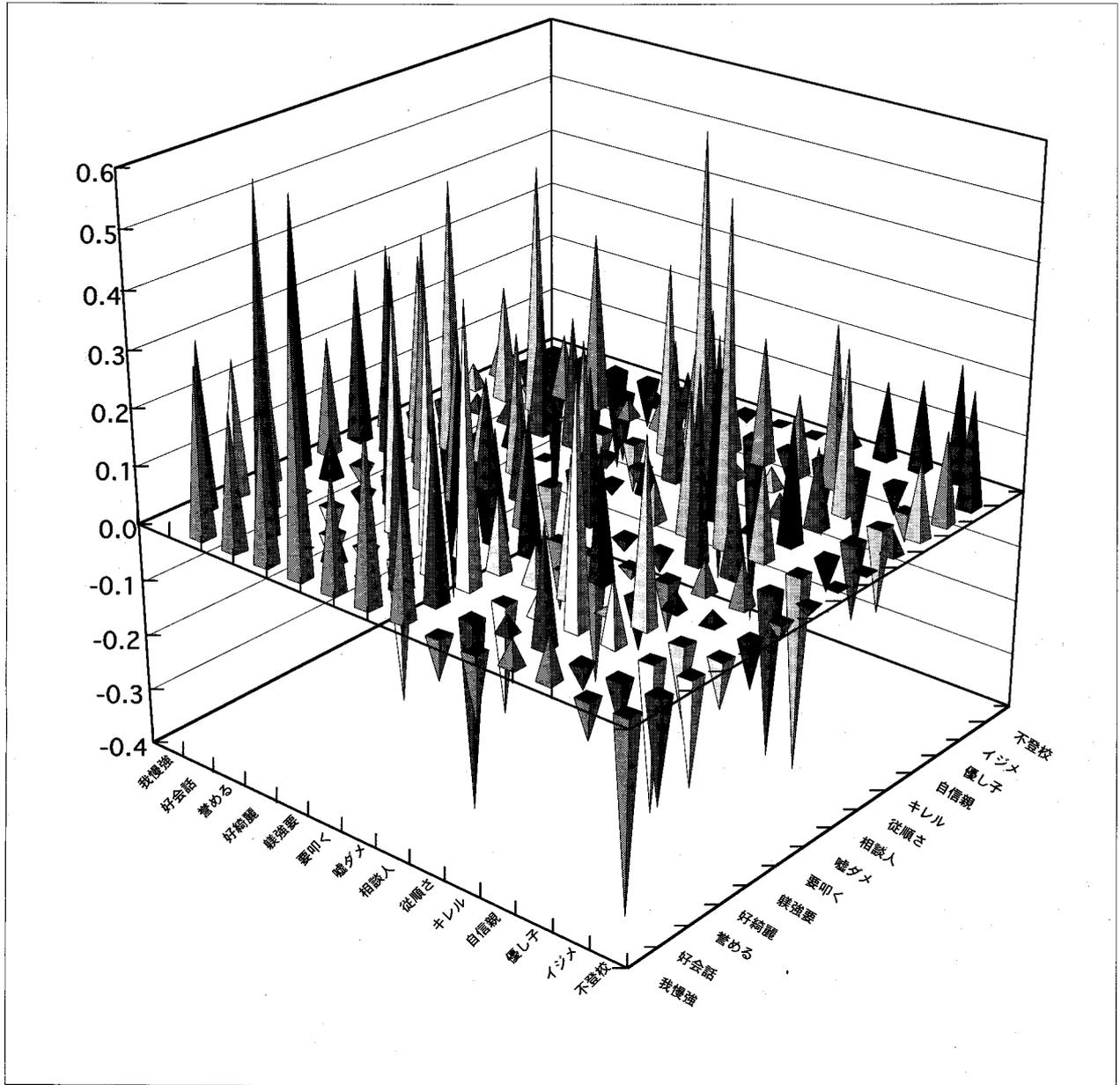
■子供さんはこれまでに高校を途中で退学した経験がありますか？

- ①はい ②いいえ

以上、ありがとうございました！

【表3】表2のアンケートの結果

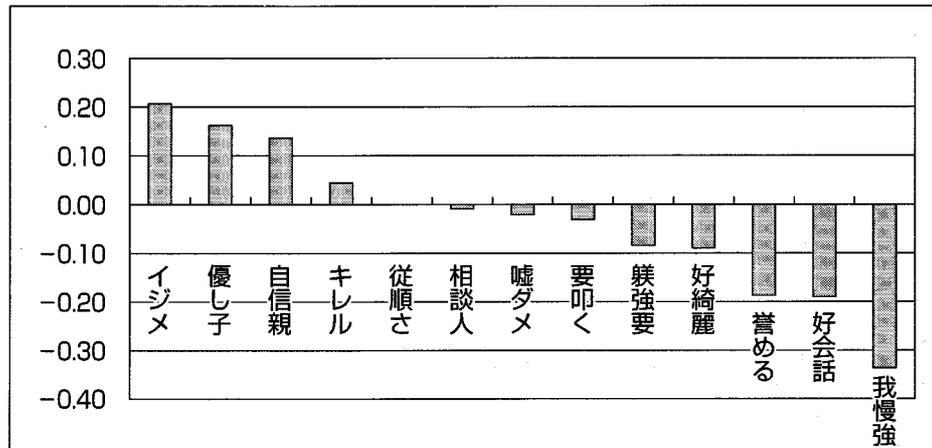
保護者名	優し子	従順さ	誉める	好会話	好綺麗	我慢強	躰強要	嘘ダメ	要叩く	相談人	自身親	キレル	イジメ	不登校
No.1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	3	3	5
No.2	1	3	2	2	2	2	4	2	3	2	2	3	2	1
No.3	2	2	3	2	2	1	2	2	5	2	2	3	3	5
No.4	2	2	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	4
No.5	2	3	3	1	2	2	3	2	3	4	3	3	3	5
No.6	2	2	3	2	3	4	4	2	4	3	2	4	1	1
No.7	2	2	2	2	2	3	5	3	4	4	4	3	1	5
No.8	2	4	1	1	2	2	3	1	2	1	1	4	3	3
No.9	2	3	2	1	2	3	2	1	3		3	2		5
No.10	2	4	1	1	2	3	4	2	3	1	1	3	3	5
No.11	2	3	2	2	2	3	2	3	4	2	3	3	2	2
No.12	2	2	3	3	1	4	2	3	3	2	3	3	3	2
No.13	2	2	1	2	2	1	2	1	3	1	2	3	2	5
No.14	1	3	3	2	1	2	2	2	2	2	3	3	2	5
No.15	1	3	2	2	3	3	4	3	5	1	2	2	3	2
No.16	2	2	3	3	1	3	4	2	3	3		2	4	5
No.17	3	4	3	2	2	3	3	3	3	3	3	4	3	5
No.18	1	3	3	2	1	3	3	3	3	3	3	3	2	2
No.19	2	3	3	2	2	2	4	3	3	2	4	4	3	4
No.20	3	4	2	2	2	3	3	3	3	1	2	1	2	3
No.21	2	2	2	1	2	2	3	2	3	2	4	2	3	5
No.22	2	2	4	3	1	1	2	3	1	2	3	3	2	5
No.23	2	1	3	2	2	3	4	2	4	1	2	3	3	2
No.24	2	2	3	3	3	3	4	3	4	4	2	3	1	4
No.25	2	2	3	3	3	4	4	4	4	3	3	3	1	5
No.26	2	3	4	3	2	3	3	3	3	4	4	3	1	2
No.27	1	4	1	2	2	2	3	2	4	2	2	4	3	5
No.28	2	3	3	2	2	2	4	2	3	4	3	4	2	1
No.29	2	3	1	1	2	2	4	2	4	2	2	4	2	4
No.30	1	1	3	2	1	2	2	2	3	1	2	1	3	5
No.31	2	3	3	2	2	2	2	2		3	3	3	2	5
No.32	1	1	2	3	1	3	4	2	5	1	1	3	3	4
No.33	2	2	1	2	2	2	2	3	5	2	4	2	3	5
No.34	1	2	2	3	2	4	4	2	2	3	2	2	4	2
No.35	2	3	4	4	2	3	3	2	3	3	3	3	2	1
No.36	2	3	2	2	2	2	2	2	4	2	3	2	3	1
No.37	2	2	4	3	2	3	2	2		3	4	3	2	2
No.38	2	2	3	3	2	3	4	2	3	4	4	3	3	5
No.39	1	2	3	2	1	2	1	2	1	2	2	2	1	2
No.40	2	4	4	2	2	4	4	2	3	3	4	3	2	4
No.41	2	3	3	3	3	2	3	2	3	2	3	5	3	5
No.42	2	1	3	2	3	4	4	2	5	1	2	2	3	2



【図1】 表4の立体ヒストグラム

項目	相関係数
イジメ	0.21
優し子	0.16
自信親	0.14
キレル	0.04
従順さ	0.00
相談人	-0.01
嘘ダメ	-0.02
要叩く	-0.03
躰強要	-0.09
好綺麗	-0.09
誉める	-0.19
好会話	-0.19
我慢強	-0.34

分析① 子が不登校の傾向のある親の意識と生徒の実態

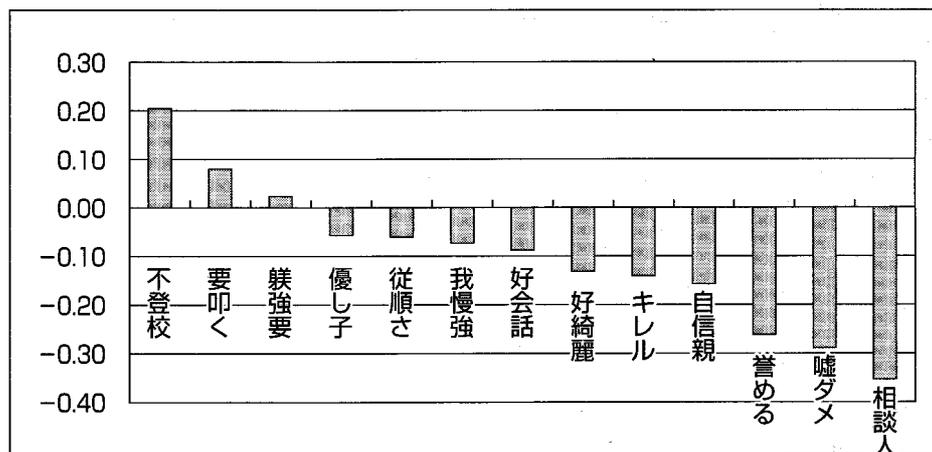


分析・・不登校の子どもは、気が優しく、過去にイジメられた傾向がある。また、家庭での対話も少なく、誉められることも少ないという傾向がある。

★この分析より、子が優しいだけで、我慢強さに欠けると、子ども同士のいさかいに負け、イジメに合い易くなる。また、家庭での対話も誉められることもないと、価値判断ができにくく自我の成長が遅れるために幼く見え、イジメられると考えられる。こういう状況は、子どもが対人関係に自信を失い、自閉し、不登校につながると推測することもできる。

項目	相関係数
不登校	0.21
要叩く	0.08
躰強要	0.03
優し子	-0.06
従順さ	-0.06
我慢強	-0.07
好会話	-0.09
好綺麗	-0.13
キレル	-0.14
自信親	-0.16
誉める	-0.26
嘘ダメ	-0.29
相談人	-0.35

分析② 子がイジメられる傾向のある親の意識と生徒の実態

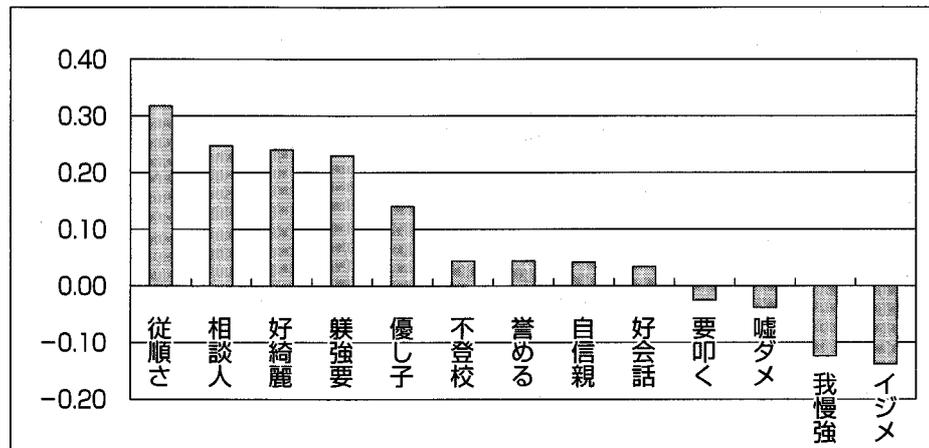


分析・・いじめられる子は、同時に不登校の傾向がある。また、保護者は相談する人がいなく、子が嘘をついても許してしまい、子を誉めることもないという傾向がある。

★この分析より、いじめの背景に当事者が嘘をついたか否かの議論が必ずあるといっても過言ではない。一方的に保護者のせいにするとはできないが、一つの原因として見る謙虚さも必要であろう。

項目	相関係数
従順さ	0.32
相談人	0.25
好綺麗	0.24
躰強要	0.23
優し子	0.14
不登校	0.04
誉める	0.04
自信親	0.04
好会話	0.03
要叩く	-0.03
嘘ダメ	-0.04
我慢強	-0.13
イジメ	-0.14

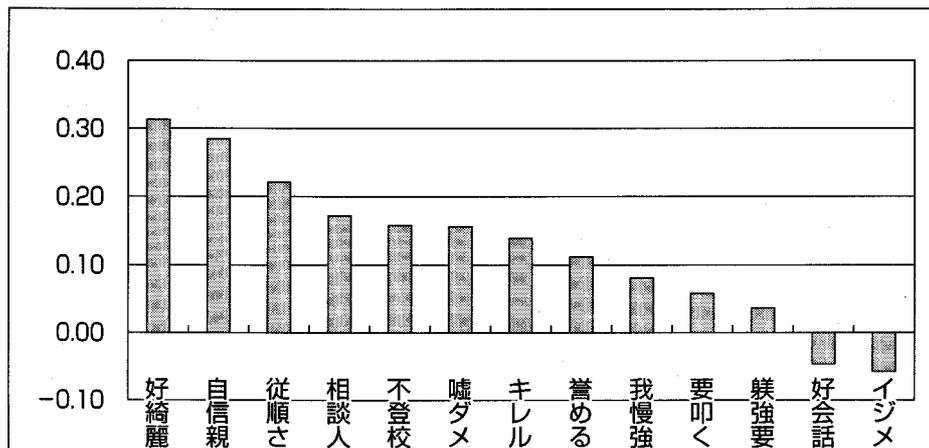
分析③ 子がキレル傾向のある親の意識と生徒の実態



分析・・・よくキレル子の保護者は相談相手も多く、綺麗好きである。しかし、従順さを強要し、躰にとて厳しいという傾向がある。子どもは我慢強さが足りなく、いじめに回り易い面もある。
 ★この分析より、保護者が厳し過ぎると子どもは反抗したくなる。また、対話も誉められることもなければ、様々な不条理を受け入れなければならない。承服できなければキレルことになる。さらに回りの子に矛先を向けイジメる傾向もあると推測される。

項目	相関係数
好綺麗	0.32
自信親	0.29
従順さ	0.22
相談人	0.17
不登校	0.16
嘘ダメ	0.16
キレル	0.14
誉める	0.11
我慢強	0.08
要叩く	0.06
躰強要	0.03
好会話	-0.05
イジメ	-0.06

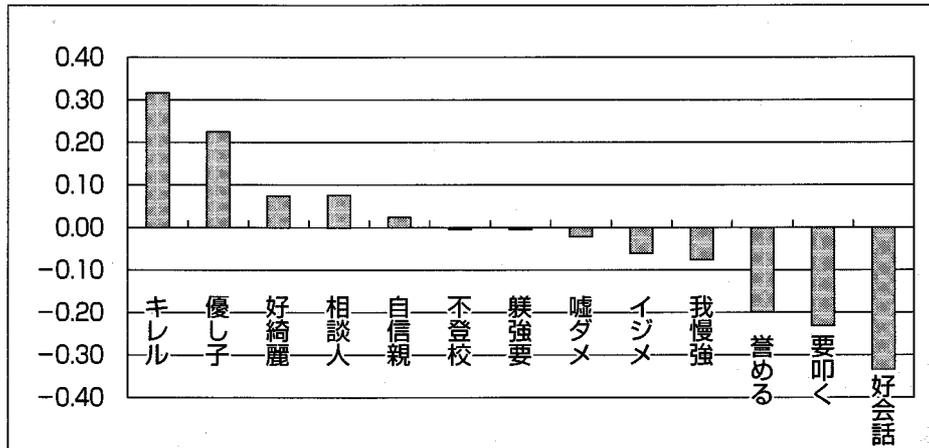
分析④ 子に優しさを強く期待する親の意識と生徒の実態



分析・・・子に優しさを強く求める親は従順さも求める傾向がある。また、綺麗好きで自分の生き方に自信を持っている傾向もある。
 ★この分析より、親の自己主張が強いと、子どもにはややウルサイものになる。従って子どもが神経質になり回りを気にし過ぎて、不登校になるときもあり、家庭では反抗的になりキレル時もあると思われる。

項目	相関係数
キレル	0.32
優し子	0.22
好綺麗	0.07
相談人	0.07
自信親	0.02
不登校	0.00
躰強要	-0.01
嘘ダメ	-0.03
イジメ	-0.06
我慢強	-0.08
誉める	-0.20
要叩く	-0.23
好会話	-0.34

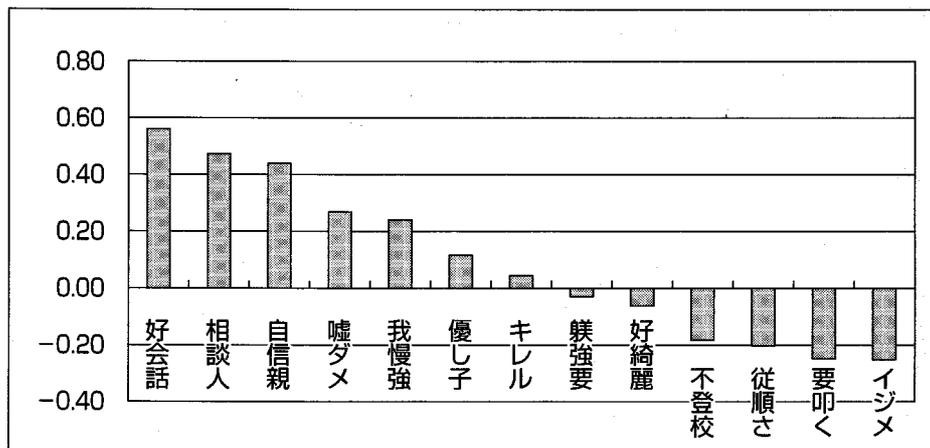
分析⑤ 子に従順さを強く期待する親の意識と生徒の実態



分析・・子に従順さを強く求める親は、優しい子になることをも期待するが、子はよくキレル。特に子を叩く必要は感じていないが、家庭では対話も誉められることもないという傾向がある。
 ★この分析より、子どもに不必要に従順さや優しさを強要すると、子供は反抗的になってかなりキレてしまうと思われる。当然、このような家庭には対話は期待できないようである。

項目	相関係数
好会話	0.56
相談人	0.47
自信親	0.44
嘘ダメ	0.27
我慢強	0.24
優し子	0.11
キレル	0.04
躰強要	-0.04
好綺麗	-0.06
不登校	-0.19
従順さ	-0.20
要叩く	-0.25
イジメ	-0.26

分析⑥ 子をよく誉める親の意識と生徒の実態

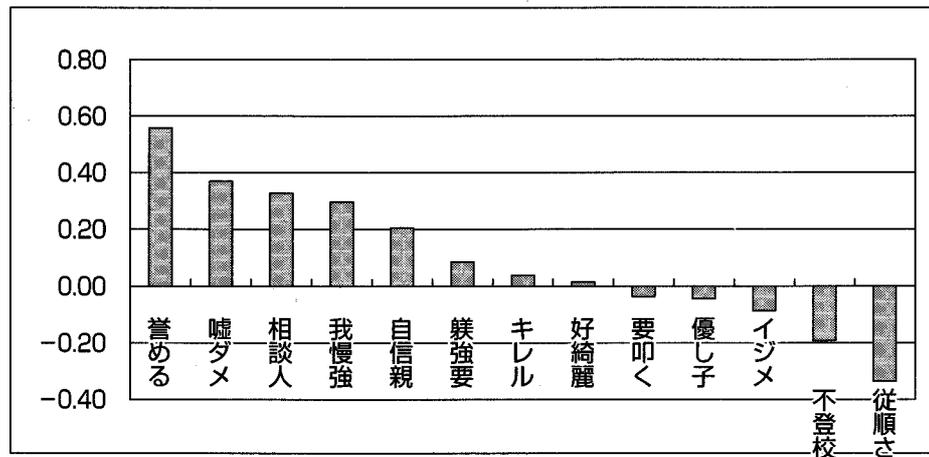


分析・・子をよく誉める親は、相談相手も多く自信があり、子とよく話す。また、嘘も許さず、子どもは我慢強くなる傾向もある。親は子を叩く必要は感じていないが、子は個性が強く他をいじめる傾向がある。

★この分析より、子どもをよく誉め、よく話をする家庭の子は価値観が早く確立し、自信が深まり我慢強くなると思われる。逆に自信がありすぎると、意見の異なる子や自己主張の少ない子をイジめる傾向にあると推測される。

項目	相関係数
誉める	0.56
嘘ダメ	0.36
相談人	0.33
我慢強	0.29
自信親	0.21
躰強要	0.08
キレル	0.03
好綺麗	0.01
要叩く	-0.04
優し子	-0.05
イジメ	-0.09
不登校	-0.19
従順さ	-0.34

分析⑦ 子とよく話をする親の意識と生徒の実態

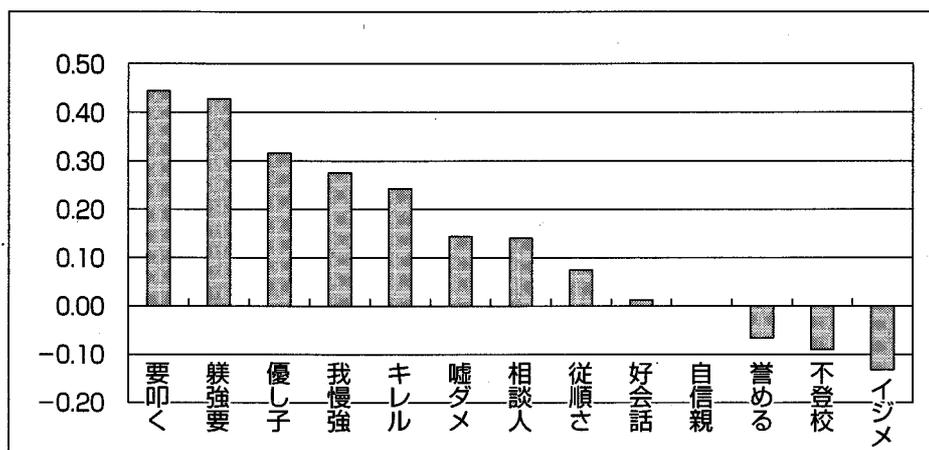


分析・・・よく話す親は、子を誉めるのがとても上手く、相談相手も多く、自信もある。しかし、子は我慢強く不登校になることはないが、従順とは言えないという傾向もある。

★この分析より、親とよく話し、よく誉められる子は自我の発達が進み、自ら判断し行動し我慢強くなると思われる。したがって、不登校になることはないが、自主性が発達して必ずしも従順でないという傾向もあると推察できる。

項目	相関係数
要叩く	0.44
躰強要	0.43
優し子	0.32
我慢強	0.27
キレル	0.24
嘘ダメ	0.15
相談人	0.14
従順さ	0.07
好会話	0.01
自信親	0.00
誉める	-0.06
不登校	-0.09
イジメ	-0.13

分析⑧ 自分が綺麗好きだと思っている親の意識と生徒の実態

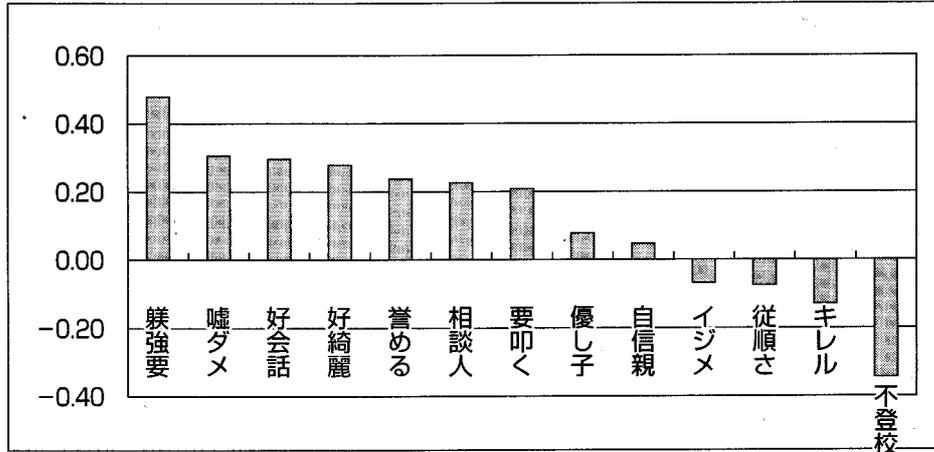


分析・・・綺麗好き過ぎる親は躰に厳しく、子を叩く必要を強く感じ、我慢強い優しい子になることを強要する傾向がある。また、子はそれに反抗的になりキレル傾向もある。

★この分析より、保護者の強い個性と自己主張は、子どもを反抗的にしてキレさせるときもある。さらに場合によっては子どもはその強さを外に発揮していじめに回ることもありうると思われる。

項目	相関係数
躰強要	0.48
嘘ダメ	0.31
好会話	0.29
好綺麗	0.27
誉める	0.24
相談人	0.23
要叩く	0.21
優し子	0.08
自信親	0.05
イジメ	-0.07
従順さ	-0.08
キレル	-0.13
不登校	-0.34

分析⑨ 我慢強い子に育てようとした親の意識と生徒の実態

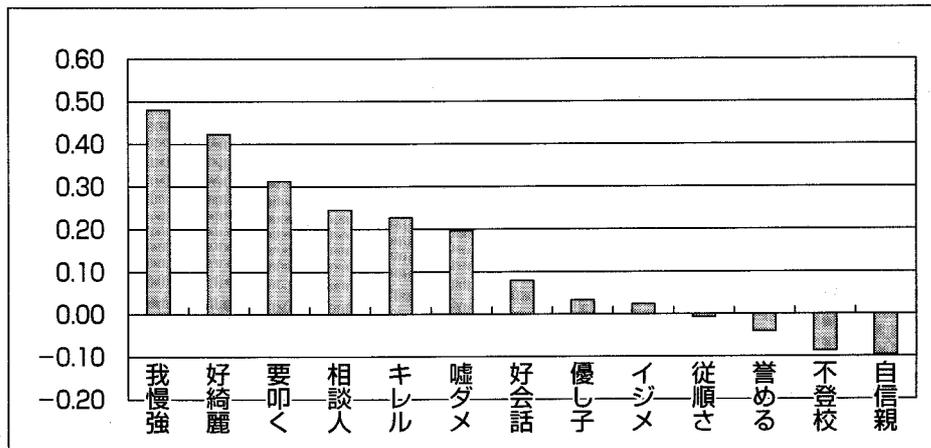


分析・・・我慢強い子に育てようとする親は躰に厳しく、時には叩く必要も感じ、嘘も許さないの子どもは我慢強くなる。また、綺麗好きで相談相手も多いという面もある。さらに家で、よく話しよく誉める為に子どもは不登校になることはないという傾向がある。

★この分析より、「我慢強い子に育て、嘘を許さず、子どもとよく話し、そしてよく誉める。」と、不登校になったりキレたりせず、かつイジメにも合い難いという理想的なパターンをここに見ることができる。今、教育に求められているのはこの我慢強さを育てることではないかと思われる。

項目	相関係数
我慢強	0.48
好綺麗	0.43
要叩く	0.31
相談人	0.25
キレル	0.23
嘘ダメ	0.19
好会話	0.08
優し子	0.03
イジメ	0.03
従順さ	-0.01
誉める	-0.04
不登校	-0.09
自信親	-0.09

分析⑩ 子の躰に厳しい親の意識と生徒の実態

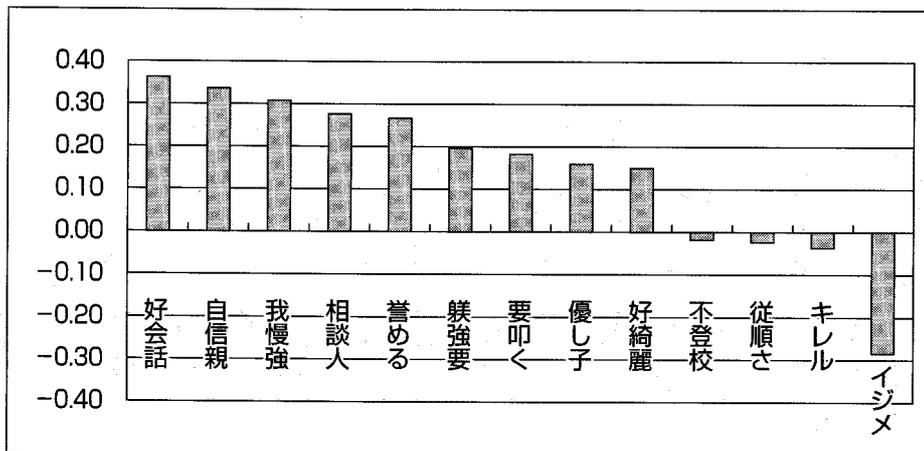


分析・・・子の躰にウルサイ親は、綺麗好きで相談役も多い。時には叩く必要も強く感じ、子に我慢を強い嘘も許さない。そのためか、子はキレル傾向がある。

★この分析より、子どもの躰にうるさい家は、当然、子どもに我慢強さも強要する。しかし、その説明をするための対話を増やし、良い所は誉めないと、子どもはその不条理に抵抗してキレルことになるとと思われる。

項目	相関係数
好会話	0.36
自信親	0.34
我慢強	0.31
相談人	0.27
誉める	0.27
躰強要	0.19
要叩く	0.18
優し子	0.16
好綺麗	0.15
不登校	-0.02
従順さ	-0.03
キレル	-0.04
イジメ	-0.29

分析⑪ 子が嘘をつくことに厳しい親の意識と生徒の実態

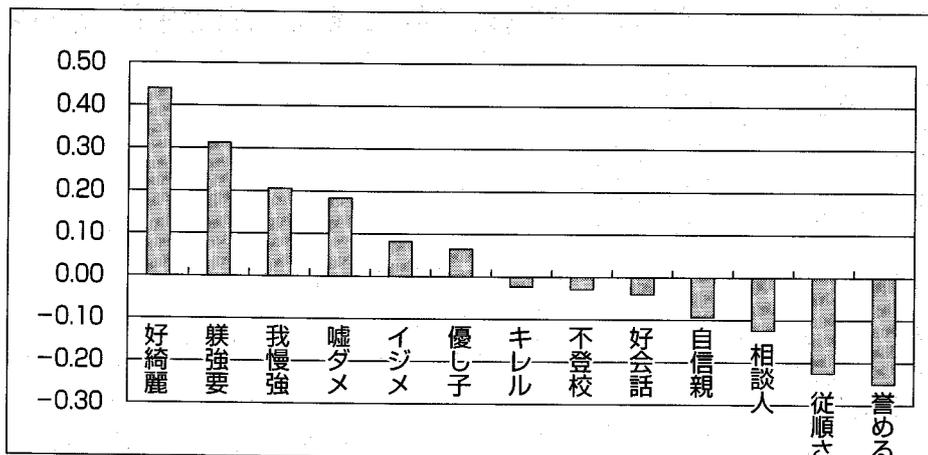


分析・ ・嘘に厳しい親は、相談相手もあり自信を持ってよく話しよく誉める。また、躰に厳しく我慢強く育てようとする傾向がある。そのためか、子は他に厳しさを発揮しイジメに回る傾向が強い。

★ この分析より、厳格さをもって、かつ、よく話しよく誉めると、不登校にもキレルこともないという長所がある。反面、その強い厳格さを他の子に向けて発散するためイジメを積極的にやる傾向も出てくると推測される。

項目	相関係数
好綺麗	0.44
躰強要	0.31
我慢強	0.21
嘘ダメ	0.18
イジメ	0.08
優し子	0.06
キレル	-0.03
不登校	-0.03
好会話	-0.04
自信親	-0.09
相談人	-0.13
従順さ	-0.23
誉める	-0.25

分析⑫ 時には叩く必要もあると思う親の意識と生徒の実態

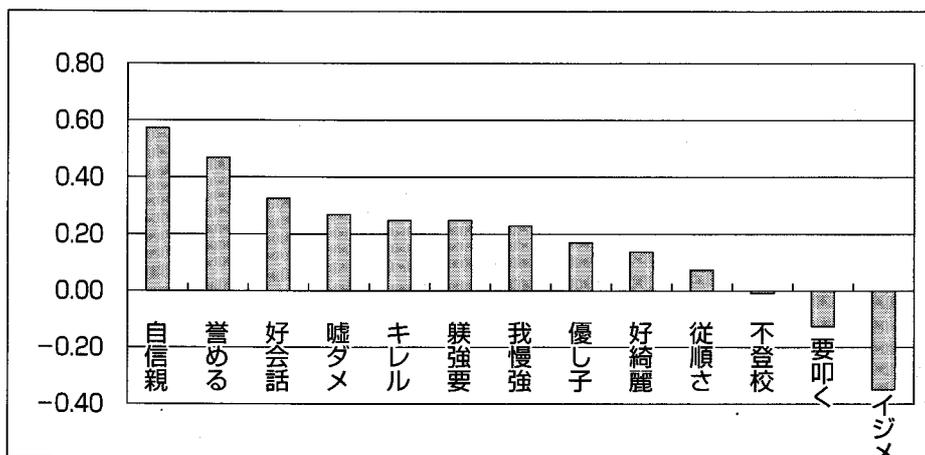


分析・ ・時には叩く必要もあると思っている親は、綺麗好きで躰にうるさく我慢強さを強要する傾向がある。家では子どもを誉めたりすることもないため、反抗的で従順さはないという傾向がある。

★この分析より、子を積極的に叩くということで、躰を厳しく我慢強い子に育てることを保護者は狙っていると思われるが、よく対話しよく誉めないと、子どもは価値判断ができ難く、素直さを失うということが伺える。

項目	相関係数
自信親	0.58
誉める	0.47
好会話	0.33
嘘ダメ	0.27
キレル	0.25
躰強要	0.25
我慢強	0.23
優し子	0.17
好綺麗	0.14
従順さ	0.07
不登校	-0.01
要叩く	-0.13
イジメ	-0.35

分析⑬ 相談する人の多い親の意識と生徒の実態

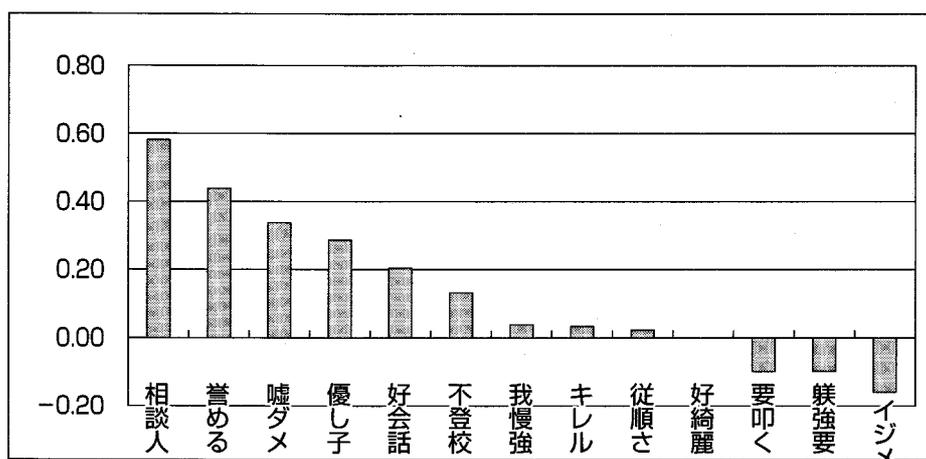


分析・・困った時に相談役の多い親は自分に自信が生まれ、子をよく誉め子とよく話す面もあるが、嘘をつくことや躰にうるさいので、子は時にはキレル。そして、他の子をいじめる傾向もある。

★この分析より、困った時に相談役の多いことは良いことである。それをもとに保護者が自信を持てば子どもの良いところがあるので誉め易くなる。しかし、他者から得た自信は自分のものになっていない時もあり、やや押しつけがましくなり、子どもは反抗してキレたり、矛先を他に向けイジメることも多くなると推察できる。

項目	相関係数
相談人	0.58
誉める	0.44
嘘ダメ	0.34
優し子	0.29
好会話	0.21
不登校	0.14
我慢強	0.05
キレル	0.04
従順さ	0.02
好綺麗	0.00
要叩く	-0.09
躰強要	-0.09
イジメ	-0.16

分析⑭ 自分に自信を持っている親の意識と生徒の実態



分析・・自分に自信のある親は、相談する人も多く、子を誉め、嘘に厳しく、優しさを求める傾向がある。なぜか、子どもは少しだけいじめに回る傾向がある。

★この分析より、保護者の自信の背景には自分を評価してくれる相談相手の存在がある。それは、子どもの評価にも繋がり、家庭での対話も増え子どもを良く誉めることに繋がると思われる。ただし、子どもが自信過剰になると少しだけいじめをする傾向も出てくると思われる。